

平成 29 年度「提案公募型事業」申請書類(2)  
< 受 託 申 請 書 >

ふりがな 団体名	ばあば工房『港まち・すこやか倶楽部』Ⅱ						
ふりがな 代表者名	代表 市橋 玲子						
募集期間 (該当を○で囲む)	第1期 / 第2期						
事業の分野・テーマ (該当に●印・複数可)	●	【 ○ 】 心地よく安心な港まちで暮らす					公募要領の 「2委託対象 事業」を参照
	●	【 △ 】 魅力的でにぎやかな港まちに集う					
		【 □ 】 みんなと港まちを創る					
提案事業名	「港まちの文化と健康を守ろう」						
希望金額=A ※5ページ・6ページの Aと同額を記入	6	8	3	9	0	0	円
期間 (準備～事業終了日)	平成 29 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 1 月 31 日						

【提案事業の計画】 ※ 簡潔かつ具体的に記入してください。

(1) 事業の目的・見込まれる成果

上記で選択した事業の分野・テーマ(○・△・□)について、具体的にどのような目的を持ち、どのような成果を見込む事業であるか、詳細に記入。

1. 【地域課題】日本社会また、港まちにおいても、少子・超高齢社会が顕著に現れている。港まちの高齢化率も高く、独居・認知症さらに空き家問題も加速してきている。ばあば工房での参加者や活動の中でも、「私たち高齢者は、遠くにいけない。近くで、気軽に立ち寄り、健康や介護について、相談できるところがほしい」と声がある。

地域に暮らす高齢者は、「この港で、自分の家でずーと暮らしたい。でも病気や動けなくなったらどうしよう。子供に迷惑をかけたくない」誰もが抱える不安がある。そのために、国は様々な高齢者施策を整えようとしている。また、地域ネットワークの必要性もうたっている。「歩いて行ける場所」に気軽に高齢者が健康チェック・相談また、必要な情報提供を得られる場所が必要になっている。

2. 【事業目的】地域高齢者が自分の足で出かけられる場所に、人と人との交流を楽しみ、健康に関する相談が気軽にできる場所を作る。

3. 【見込まれる成果】高齢者・虚弱者が、地域での生活上の安心感が得られること。この場所で出会う同世代や他世代との交流ができることで、身近な助け合いのネットワークができること。

(2) 事業の概要

1. 定期的(1回/月)に、ばあば工房を会場とし、以下のプログラムを実施する。

①看護師・ケアマネジャーによる健康相談・認知機能低下防止相談。

②パソコンインストラクターによる、高齢者のためのIT知識と活用のためパソコン・スマートフォンの使い方教室を開催する。

③高齢者への健康維持や、地域でより良い生活を続けていくために役立つ講座を開催する。

④人を楽しませること人を喜ばせることが、免疫力の活性になることが健康維持促進になることを理解していただける機会を作る。

## (3) 事業の具体的な内容と方法〔内容、実施日・実施場所、想定参加者等〕

## 1. 内容

- ①高齢者・虚弱者が、地域での生活と健康上の安心感が得られること。  
 ②この場所で出会う同年代や他世代との交流することで、身近な助け合いのネットワークができることを目指した場所づくりを行う。  
 ③昨今では、高齢者もスマートフォンを利用するようになっているが、スマートフォンの機能を十分利用できずにいる「IT難民」とも呼ばれるアナログ世代にわかりやすくかみ砕いた説明が必要である。家族や販売店に聞いても、若い世代は、なかなか高齢者に理解できるように説明ができない。高齢者でも、スマートフォン・パソコンが使えるようになると、様々なサービスの利用も可能となるので、パソコン・スマートフォンの講座を開催する。

## 【健康相談・パソコン・スマートフォン教室・講座】

1. 看護師・ケアマネジャーによる血圧測定・健康や介護相談。
2. パソコンインストラクターによるパソコン・スマートフォンの使い方・楽しみ方教室
3. 各種講師による高齢者向けの講座（高齢者詐欺防止・認知症防止・老後生活情報など）
4. スタッフによる、見守りや介助。話し相手やおもてなし（お茶・お菓子など）

## 2. 実施日・実施場所（屋外で実施する場合は、雨天時の対応も記入してください。）

- 6月7日(水)パソコン・スマートフォン教室・健康相談。午後：講座「豊かな老後を過ごすために」  
 7月5日(水)パソコン・スマートフォン教室・健康相談。午後：講座「豊かな老後を過ごすために」  
 8月9日(水)パソコン・スマートフォン教室・健康相談。午後：講座「豊かな老後を過ごすために」  
 9月6日(水)パソコン・スマートフォン教室・健康相談。午後：講座「豊かな老後を過ごすために」  
 10月4日(水)パソコン・スマートフォン教室・健康相談。午後：講座「豊かな老後を過ごすために」  
 11月1日(水)パソコン・スマートフォン教室・健康相談。午後：講座「豊かな老後を過ごすために」  
 12月6日(水)パソコン・スマートフォン教室・健康相談。午後：講座「豊かな老後を過ごすために」  
 1月(日程調整中)みんなで笑おう『健康落語会』

場所：ばあば工房

時間：10:00～15:00(午前：血圧測定・健康相談・パソコン・スマートフォン教室/午後：各種講座)

参加：午前・午後とも自由参加

## 3. 想定参加者人数・参加者層

## 【パソコン・スマートフォン教室/PM：健康相談・講座】

講座参加人数：定員 10～20名程度

対象：内容・プログラム(講座)に関心のある人。特に高齢者。

## 【みんなで笑おう『健康落語会』】

対象：一般市民 100名

★参加費無料

(4) 広報手段

【パソコン・スマートフォン教室/PM:健康相談・講座】

- ・西築地学区を中心にチラシを配布し、地域住民から参加者を募集する。
- ・学区商店や地域活動されている方を通じて、高齢者や今後の生活に不安や心配のある方々へ伝える。
- ・港まちづくり協議会・社会福祉協議会・いきいき支援センター・老人会・民生委員などから広報協力を得る。

(5) 事業のスケジュール(準備～実施～実施後の実施運営スケジュール)

5月上旬～準備委員会開催(企画・講師確保・役割分担)

事業採択後、チラシ・ポスター作製準備・参加者募集

6月～12月・定期【パソコン・スマートフォン教室・健康相談/午後:講座】開始

1月【健康落語会】

(6) 事業の運営体制(スタッフの役割・人数や委託外注の活用等による運営体制、地域との連携など)

【パソコン・スマートフォン教室と健康相談。PM:各種講座】

講師:パソコンインストラクター1名と看護師1名・ケアマネジャー1名+各種講座講師1名

スタッフ:5名

パソコン・スマートフォンは、参加者持参のもの。レンタル2台を用意する。

「豊かな老後を過ごすために」講座は、毎回テーマを決めて講師依頼していく。

【イベント】PM:みんなで笑おう『健康落語会』

講師:落語家+笑い学会員

会場:(仮)信興寺にて、落語会の開催

## 【事業のアピール】

次の各項目は審査基準と同じで、審査の判断材料となります。事業のアピールポイントを具体的に箇条書きで記入して下さい。(公募要領の12の審査基準の欄を参照してご記入ください。)

## (1) 実現可能性

1. 「ばあば工房」をサロンとして開放していることもあり、地域住民や高齢者にとっても、なじみのある場所であり、誰もが参加しやすい。
2. 看護師・ケアマネジャー・パソコンインストラクター等、専門職を講師として協力が得られる。
3. 地域に根差した場所で、小規模な事業は、地域住民が参加しやすい。  
・地域で高齢者が集まる場所(ばあば工房・喫茶店・商店など)から、日ごろ高齢者方々の会話は「足が弱って、遠くへ行けなくなった。自分たちはどんどん老いていくけど、今の世の中子供をあてにできない。どうしたいのか、わからない。介護保険ってどういう人が利用できるのかわからない。」「喫茶店から帰ろうとされた方が、自分の家がわからなくなった。こういう時どこへ連絡すればいいのか、わからない。助けてあげたくても、どうすればいいのか、自分たちにもわからない。」「気軽に教えてもらったり、相談したりできる場所があるといい」「スマートフォンは、電話メール写真しか使っていない」などの声を聴くことが多くなっている。「人に迷惑をかけたくない」という人としての思いが、逆に孤立化していることもある。地域の方々も、危惧しており、「できることはしてあげたい」という気持ちもある。また元気高齢者も、「動けるうちは、人の役に立ちたい」と考えている。このような講座の機会をもって、高齢者自身の自覚が高まり、高齢者への支援の方法が少しでも理解ができる。ネットワークができれば、地域で助け合える。  
★今事業は、前年度事業の第2弾である。前回参加者が平均15名であったことから、当初予定していたより、多くの参加があった。健康・老後・いきがいや楽しみは、住民の関心が高いことがわかった。引き続き開催を希望される声も聞かれた。この事業を継続していくことで、地域住民の健康や老後を考えることの機会づくりとなり、また参加した人たちが広めていくことも想定できる。事業継続することが必要。開催時には、参加者自らが、それぞれにできる役割を担うこともあり、ネットワークづくり・他者貢献へとつながっている。

## (2) 積算の妥当性

看護師・ケアマネジャー・パソコンインストラクター等、専門職や講座講師、さらに担当スタッフもボランティア的協力が得られるため、安価である。  
定期講座を行いながらも、諸経費が少ないため、採算性は妥当である。

## (3) 公益性・社会貢献性

1. 高齢者の健康相談や講座を行うことは、高齢化率の高い地域住民の不安を解消できる。
2. 本事業は、国が目指そうとしている地域包括ケアシステム(誰もが安心して、住み慣れた地域で最期まで暮らせる)の受け皿としても、地域での助け合いの仕組み作りが、必要とされている。
3. 古民家を活用している事業としては、昨今の問題「空き家の活用法」のモデルとなる。

## (4) テーマとの整合性

本事業は、今後の超高齢社会への不安を、少しでも地域で解消していく。また、高齢者支援の地域ネットワークを作ることになり、テーマに合致している。

## (5) 将来性

地域社会が抱えている、超高齢化・空き家問題などがあり、今後の地域課題としては、大きいものがある。高齢者に対応できる看護師やインストラクター・講師の役割は大きい。今後益々必要とされることは必須である。今事業を通して、超高齢社会の地域活動を行う第一歩となっていくと考える。

## (1) 支出の部

項目	金額(円)						
	千	百	十	千	百	十	円
① 外部講師謝金	2	5	5	5	0	0	円
② 旅費交通費			8	4	0	0	円
③ 会議費			5	0	0	0	円
④ 物品購入費		3	6	0	0	0	円
⑤ 借上料		5	9	0	0	0	円
⑥ 保険料						0	円
⑥ 人件費	2	5	0	0	0	0	円
⑦ 委託外注費		5	0	0	0	0	円
⑨ 通信費						0	円
⑩ 印刷製本費						0	円
⑪ 事務費等		2	0	0	0	0	円
<b>総支出合計=A</b> (港まちづくり協議会からの委託契約金額合計) (1ページのAと同額かご確認ください)	6	8	3	9	0	0	円

※ 参加費を徴収する事業の方は、参加費で充当される予定の品目は入れないでください。

※ 参加費で充当される予定の品目は、(様式1)の【徴収される参加費に相当する事業費】に計上してください。

## (2) 対象経費明細 ※対象経費明細のエクセル形式(様式2)の使用も可能です。

項目	経費の内訳 人数、単価、数量、回数等の明細を具体的に記入してください。
① 外部講師謝金	講師(パソコンインストラクター): 59,500 円(6,000 円+交通費 2,500 円=8,500 円/日×7 回) 講師:(看護師): 46,200 円(6,000 円+交通費 600 円=6,600 円/日×7 回) 講師(ケアマネジャー): 46,200 円(6,000 円+交通費 600 円=6,600 円/日×7 回) 講師(豊かな老後を過ごすために): 33,600 円(5,000 円+交通費 600 円=5,600 円/日×6 回) 講師(健康落語会): 70,000 円(50,000 円+交通費 20,000 円)
2 5 5 5 0 0 円	
② 旅費交通費	スタッフ交通費: 6,000 円(600 円×2 名×7 回)
8 4 0 0 円	
③ 会議費	打ち合わせ会議時のお茶代: 5000 円(500 円×5 人×2 回)
5 0 0 0 円	
物品購入費	講座当日のお茶代: 21,000 円(150 円×20 人×7 回) 健康落語会お茶代: 15,000 円(150 円×100 人×1 回)
3 6 0 0 0 円	
借上料	パソコンレンタル: 14,000(1,000 円×2 台×7 回) ばぁ工房会場費: 35,000 円(5,000 円×7 回) 落語会会場費: 10,000 円
5 9 0 0 0 円	
⑥保険料	
円	
④ 人件費	会議打ち合わせ: 10,000 円(1,000 円×1 時間×5 名×2 回) 講座スタッフ: 175,000 円(1,000 円×5 時間×5 名×7 回) 広報・宣伝・ポスティング・買い物: 25,000 円(1,000 円×5 名×5 時間) 落語会スタッフ: 40,000 円(1,000 円×4 時間×10 名×1 回)
2 5 0 0 0 0 円	
委託外注費	健康相談会・落語会のチラシ作成デザイン費・印刷費: 50,000 円 (健康相談会 7 回・落語会 1 回)
5 0 0 0 0 円	
通信費	
円	
⑩印刷製本費	
円	
⑪事務費等	文具(ファイル・テプラカートリッジ・紙代・封筒代・セロテープボールペン・マジックインク・インクジェット代など) 講座用物品(コピー紙・名刺用紙・写真用紙など)
2 0 0 0 0 円	
総支出合計=A	1ページ・5ページのAと同額ご確認ください
6 8 3 9 0 0 円	